

Employee's Profile

Q&A

情熱羅針盤

ジャパントラストかわら版



入社2年目の柳原です。顧客支援チームに所属し、営業開発チームの柏倉とパートナーを組んでおります。主な仕事内容は、既存のお客様の見積作成や、ブッキングの受付などです。よく人からは、ユニークな性格だと言われます。ベトナムで生まれ、4歳の時にフィリピンに渡り、7歳の時に来日しました。高校までを日本で過ごし、留学のために18歳で渡米、21歳で日本帰国しました。こうして書いてみると、人より変わってるんだろなあ実感しますね。でも、人生の節目を様々な国で過ごせたチャンスを与えてくれた両親にはとても感謝しています。今年は初めての一人旅を満喫し、今後も大好きな遺跡を回る旅をしようという野心を燃やしています。趣味は食べる事&飲む事です。オススメを教えてくださいと嬉しいです♪



東京支店：柳原

（新規等北米のみターゲットしてセールスしている時）「ジャパントラストさんは何でそんなに北米が欲しいの？」という質問を受けることがよくありますが、今回は「ジャパントラストはなぜ北米サービスにこだわるのか」というその理由をお伝えしようと思います。北米サービス、それは我々がもっとも得意とするサービスでお客様に大変メリットがあり喜ばれています。理由その① 北米航路において、我が社は各船会社様とのボリュームに基づいた年間契約（SERVICE CONTRACT=SC）があるので、他航路では出しにくい、裏づけのあるコストメリットやサービスの幅というメリットが出せます。理由その② 通常 SC には期間中必ず積まなくてはならないという契約本数があり、クリアできなければペナルティが発生してしまいます。しかし、我々は荷主様とは SC を結ぶ形態でお約束をしないので、ペナルティを回避することができ、気楽にご利用いただけます。理由その③ 現在、我が社は北米に自社の現地法人 GREAT LUCK INC. をおいており、最適なサービスをご提供する事ができます。いつも「北米間のサービスではジャパントラストがナンバーワンの存在になりたい」と思いながら、日々邁進しています。 執筆：名古屋本社 大川内

Letter from Los Angeles



Great Luck Incは、10/23から新事務所に移転しました。3年間慣れ親しんだ前事務所から、より広く、よりきれいな新事務所に移りました。社員一同、より一層モチベーションがあがり、今まで以上の働きを見せてくれることでしょう。多分、いやきっと...。10/20（金）の営業時間後に引越しをしたのですが、私自身は、会社立ち上げから慣れ親しんだ前事務所にはそれなりの思い入れもあり、立ち上げ当初の長時間労働で前事務所に寝泊りしたこと（ちなみにベットはなく、車の座席を部屋に持ち込みその座席で就寝...）、残業中に怪しげな人物がしのびこんできたこと（立ち向かうことなく、真っ先にセキュリティガードを呼んで退治を依頼...）、事務所内でヤモリを捕まえたこと（なぜかいた...）等々の思い出に浸りながら、最後の力ぎをかけるはずでしたが、新事務所でも早々の電話トラブルに対処しているうちに、他の社員がすでにあっさり力ぎをかけてました。なにはともあれ、より一層の発展を目指し、再度新たな気持ちを持って仕事に励みます。



駐在員：神谷
事務所はまだ整理されていないので、新調したコーヒーマーカーでも...

お客様からもらった感謝の声

ある日、新規のお客様から、初めて北米向けのブッキング依頼をいただきました。ただし、「絶対この船で！」と選択肢は一つだけ。その言葉に緊張感を覚えました。なぜならその船社とのSCでは、その運賃設定がなく、しかも船積み予定が来週の船！SCの見方にまだまだ不慣れな入社六ヶ月目の私でしたが、パートナーの菅（恵）に徹底的に教わりながら、アmendの手配とスペース交渉を平行させ、何とかブッキングNO.をお客様にお渡しすることができました。「船積みできるか？」「新入社員の私がどこまでできるのか？」とダブルの不安で、お客様は焦燥のご様子でしたが、最後には安堵の声で「ありがとうございます」と言っていました。まだ経験不足のためお客様を不安にさせてしまうこともありますが、もっと多くの感謝の言葉をいただけるようなジャパントラストの一員になれるように頑張ります。

担当：東京支店 蜂須賀

クイズ

【問題】

4月になると、ひとりごとをささやくようになる人がいるのはどこでしょう？

【効果】 柔らかい頭を養います。

難易度：★★★★☆ 言語力：★★★★☆
 数学力：★★☆☆☆ 理論力：★★★★☆ 直観力：★★★★☆

【ヒント1】 東京23区のどこかです。
 【ヒント2】 4月→「しがつ」になると、つぶやきます。

プレゼント

クイズの答え、お名前、プレゼントの送り先、ご希望のプレゼント、本誌を読んだ感想を明記の上、present@jpntrust.co.jp までお送りください。

正解者の方全員に素敵なプレゼントを差し上げます。11月20日締め切り。グルメカード500円分、ビール券(350mlx2缶)1枚、ハーゲンダッツ券(120mlx2個)1枚の3つの中からお1つお選びいただけます。

前回の答えは「-95432」でした。ご応募ありがとうございました。

正解者の方全員にプレゼントを贈らせていただきました。

海運豆知識

船が一番持っている国

世界中にはたくさんの船が走っていますが、いったいどの国の船が多いのでしょうか。船の総トン数の合計であらわす船腹量を国別に見てみましょう。2003年末の調べでもっとも多かったのは、中米のパナマで1億2,572万総t、2位がリベリアで5,245万総t、3位がバハマで3,475万総tでした。4位以下はギリシャ、マルタ、シンガポール、キプロス、ノルウェー、中国と続き、日本は12位で1,356万総tでした。このうち、パナマ、リベリア、バハマなどの国は便宜置籍船（ベンギちせきせん）のために、船腹量が多くなっています。便宜置籍とは、船にかかわる税金の負担などが軽く、日本人船員と比べると賃金の安い外国人船員を雇うことで、運航費用を下げるので、世界各國の船会社が便宜的に船籍をおくことです。ですからパナマやリベリアは自分の国の貿易や輸送のために船をたくさん持っているわけではなく、ほとんどが外国の船会社の船です。

